

令和3年 6月14日

## 令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

埼玉県		
学校名	管理機関名	設置者の別
上尾市立原市小学校	上尾市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価・保護者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立原市小学校ウェブサイト 令和2年度特別の教育課程の自己評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichi-elementaryschool/">https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichi-elementaryschool/</a>
学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立原市小学校ウェブサイト 令和2年度特別の教育課程の学校関係者評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichi-elementaryschool/">https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichi-elementaryschool/</a>
保護者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立原市小学校ウェブサイト 令和2年度特別の教育課程の保護者評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichi-elementaryschool/">https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichi-elementaryschool/</a>

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまでALTの配置や、各校、カリキュラム・マネジメントにより、柔軟な時間割の編成を行う（時間割・日課表・年間行事計画等の工夫、モジュール学習、週29コマ等）など、英語教育を推進してきた。平成30年度から、小学校3・4学年で35時間を、小学校5・6学年で70時間の活動型の英語教育として、外国語活動を実施してきた。

また、令和元年度から、小学校1・2年生においては、学校教育法施行規則第51条に定められる授業時数以外で、年間10時間程度の外国語活動を実施するほか、他教科の授業でALTを活用する「ALTアシスト授業」の実施により、ALTの「生きた英語」に触れる時間を週に1時間程度確保している。さらに外国語活動の授業以外に、休み時間等を活用し、児童とALTが自由に会話を楽しむイングリッシュトークを実施するほか、日常的にALTと触れ合う機会を充実させ成果を上げてきた。

新学習指導要領の完全実施に伴い、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

ア 小学校1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施する。

イ 本市の研究組織である英語活動充実のための検討委員会は、上記アの時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性  
本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、英語活動を通して、グローバル化社会で活躍する力を育成する。

ア 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。

(3) 特例の適用開始日  
令和2年4月1日

(4) 取組の期間  
令和4年3月31日まで

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

- ・第1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施した。
- ・45分授業ではALTと連携し、「触れよう・慣れよう・慣れ親しまよう」という流れでコミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
- ・校内研修を年2回実施し、英語指導力の向上を図った。
- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が進むよう、英語活動充実のための検討委員会が開発した指導案及び教材を活用し、授業研究会を開催した。
- ・ALTと学校応援団員主体で昼休みを活用した、コミュニケーションを図れる場である「Fun Fun English」を実施する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

## <特記事項>

- ・各学級の学級だよりや情報発信ツールで、英語活動の様子を積極的に情報発信した。
- ・学校公開では、英語活動や外国語活動、外国語科の授業を公開した。

## 4. 実施の効果及び課題

### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、小・中9年間を見通した英語教育を推進するものである。

本校の学校教育目標である、「豊かな心を育む」うえで、コミュニケーション能力の育成は要であり、その達成に向けて、英語活動の授業も要の活動となっている。第2学年の児童の様子から昨年度英語活動を実施した効果として、「他の教科でも自分の考えを発表して伝える事への抵抗感が減っている」、「感情を表すことが上手になった。」等が見られる。

その一方で、本校では、中学年は英語専科教員、高学年は学年内教科担当教員一名のみ外国語の授業を実施しており、低学年の担任以外は実際に授業を行っていない者が多い。そのため、日々の授業の中で教員の指導力や英語力の向上を図っていくのが難しい。そのため能力向上のために、研修等を実施していく必要がある。

### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、ALTが常駐配置されているため、児童は授業以外でも短い会話やあいさつ等で、英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化に触れたりしている。そのため自然と他国を尊重する心を育てている。

学習の中で、ゲーム形式で英語に触れる工夫も取り入れているので、遊びながら慣れ親しんだ語彙や表現を活用している。また、第1学年から学習の中で、言葉に発する機会を多く設けているため、英語の会話や発声への抵抗が少ない様子が見られる。そのため、コミュニケーション能力が着実に育成できており、特例校の取組の効果が表れている。

一方で、様々な異文化についての理解については、低学年ということもあり、基本的な知識も想像することが難しい面も見られる。そのため、さらにALTとコミュニケーションを図る機会を設けていく必要がある。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、今後は新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価を進めていくことが重要であると考えている。英語活動充実のための検討委員会で作成した指導案例及び教材の活用、また、市教委主催の研修を活用しながら、児童の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を推進していく。